

## 第10回 小樽商科大学 役員会 議事要旨

日 時：平成21年2月23日（月）13：00 ～ 13：40

場 所：学長室

出席者：学長，和田理事，大矢理事，中村理事

陪 席：池田監事，土橋監事，奥田副学長，事務局長

審議に先立ち，1月26日（月）開催の第9回役員会議事要旨の確認を行った。

### ●報告事項1 国立大学法人小樽商科大学教員業績評価実施規程の制定について

#### （報告資料1-1-1-2-1-3(参考)）

学長より，本件については，本学の中期目標・中期計画の達成と国立大学法人評価委員会の指摘事項を改善するために平成19年に設置した教員業績評価ワーキンググループを中心に教員の業績評価の実施について，検討したものである旨発言があり，去る2月12日（木）開催の学部・大学院合同教授会及び教育研究評議会において，報告資料1のとおり，「国立大学法人小樽商科大学教員業績評価実施規程」の制定が承認された旨説明があった。次いで，詳細について，報告資料1に基づき，奥田副学長から下記のとおり報告があった。

#### 【奥田副学長：報告内容】

- 本件については，本学の中期目標・中期計画の達成と，国立大学法人評価委員会（文部科学省）からの指摘事項を改善することを目的として，平成19年に教員業績評価ワーキング（平成20年度名称変更）が設置され，教員業績評価システムの内容，手続き，体制，活用等について，ワーキングで検討を進めてきた。
- 昨年8月に，各学科等の教員に対し，教員業績評価システムに関する「中間まとめ」を提示し，その意見等を踏まえ教員業績評価の実施についてさらに検討を重ね，ワーキングとしての成案を得て，報告資料1-1のとおり，去る2月12日（木）開催の学部・大学院合同教授会及び教育研究評議会において，承認されたものである。
- 教員業績評価の実施目的としては，報告資料1-1の規程第2条にもあるとおり，
  - (1)教員個人の教育活動，研究活動，社会貢献活動，学内運営活動の活性化及びその改善と向上
  - (2)評価結果の分析による本学及び各学科等の教育活動，研究活動，社会貢献活動及び学内運営活動の改善と向上
  - (3)教員の活動状況及び評価結果の公表による本学の教育研究活動等に対する透明性の確保と社会に対する説明責任の遂行の3つである。
- 評価の実施間隔については，研究業績に何らの成果を出す目処が付き，かつ他大学の状況や大学評価の実施間隔などを参考に，3年毎に設定した。
- 教員は，主に研究業績を入力し，教育活動等他の活動業績については，出来るだけ事務側でサポートすることとした。

- ポイントを除く各種データは、昇給や勤勉手当，研究費の傾斜配分，研究者総覧及び社会連携のための教員ディレクトリー等に活用することとした。
- 内容については，配付資料 1－2（教員業績評価のフロー図）のとおりである。
- 本年の 9 月ないし 10 月ごろに第 1 回の教員業績評価を実施する予定である。システムへのデータ入力やシステムの検収期間を考慮すると実施期間は，この時期となる。
- 現在，報告資料 1－3（参考）に基づき，シミュレーションを行っており，その結果を踏まえ，最終まとめないし最終報告書をワーキングで作成し，3 月中の学部・大学院合同教授会を目処に報告する予定である。
- シミュレーション結果の精度は入力されたデータの精度以上にならない。現在入力しているデータはできる限りの範囲で集めているが，研究活動分野，特に学会等における役割等については把握できていない。第 1 回の教員業績評価を実施した際にこれらの情報を収集することができると思われるので，第 1 回の教員業績評価を実施した後に改めてシミュレーションを行う必要がある。
- 教員業績評価の実施に当たっては，最終まとめを踏まえて実施要項等を作成し，事前に公表・配布する。その際にシステムの説明会等も併せて実施する予定である。
- 来年度，教員業績評価を実施した後に，アンケートやシミュレーション等を行い，教員業績評価システムや評価項目及びポイント等を含め，見直しを行う予定である。見直しにはポイントと 5 段階自己判定との関係や 3 年ごとの評価実施も含まれるため，見直しは長期間継続的に行うことになる。

#### 【監事から意見】

- ・委員会の役割でポイントを加算する形となっているが，実際に当該委員会に出席したのかなど，実質面で評価する仕組みも検討した方が良いのではないか。
- ・私立大学では，授業を休講にした場合，給与を減らすシステムを持っているところもある。

#### 【学 長】

- ・本件については，奥田副学長からの報告のとおり，教員業績評価を実施しながら，長期間継続的に改善していくこととなる。

### ●報告事項2 国立大学法人小樽商科大学特認教授の称号付与について

#### （報告資料2-1・2-2・2-3）

学長より，本件については，昨年 12 月 3 日及び本年 2 月 18 日開催の教育研究評議会で承認された「国立大学法人小樽商科大学特認教授」の称号付与について，下記のとおり報告があった。

### 【学 長：報告内容】

- ・報告資料2-1のとおり特認教授称号付与規程については、かつて専任教員若しくは非常勤講師として在職した方又は現に非常勤講師として在職している方のうち、各学科等長からの推薦を受け、本学の教育、研究、地域貢献活動等に相応の貢献が認められる方に特認教授の称号を付与し、本学が進める産学官連携への協力及び支援、非常勤講師としての講義の担当、本学が主催又は協賛する事業への参画等にあたってもらい、更なる本学の教育研究活動の進展に資することを目的に、昨年10月29日の教育研究評議会において、新たに制定したものである。
- ・例えば、名誉教授の称号を付与するためには、原則として本学の専任教授として教授歴が20年必要であるが、この条項に該当しない教員や非常勤講師でも、今後とも本学の教育研究活動の進展に資すると判断される方については、2年以内を目処に特認教授という称号を付与するものである。
- ・報告資料2-2のとおり、昨年12月3日に承認された下川 哲央氏は、元本学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授で、現在は本学非常勤講師として在職中であり、本学の教育、研究、地域貢献活動等に相応の貢献が認められ、今後とも、本学が進める産学官連携への協力及び支援、非常勤講師としての講義の担当、本学が主催又は協賛する事業への参画等、本学の教育研究活動の進展に貢献されると判断されるため、特認教授の称号を付与した。
- ・下川氏の称号付与の期間については、平成20年12月3日から平成22年12月2日の2年間とした。
- ・報告資料2-3のとおり、去る2月18日に承認された浦島 久氏は、アントレプレナーシップ専攻の非常勤講師として在職中であり、本学の教育、研究、地域貢献活動等に相応の貢献が認められ、また、今後とも本学の教育研究活動の進展に貢献されると判断されることから、特認教授の称号を付与した。
- ・浦島氏の称号付与の期間については、平成21年2月18日から平成23年2月17日の2年間とした。

### ●報告事項3 平成21年度入学者選抜試験の動向について

#### （報告資料3-1-3-2）

学長より、本件については、下記のとおり、報告があった。

### 【学 長：報告内容】

- ・報告資料3のとおり、平成21年度入学者選抜試験については、既に選抜試験が終了し、入学者が確定したものや、2月25日に実施する学部一般入試（前期日程や専門高校・総合学科卒業生入試）や学部一般入試（後期日程）など、これから選抜試験を実施するものもある。
- ・学部の状況であるが、報告資料3-1のとおり、昼間コース一般入試の志願倍率が昨年度より下がっている。18歳人口の減少もあるが、大学入試センター試験の平均点が下が

ったことも影響があるようだ。

- ・他の入試選抜については、概ね志願倍率が伸びているが、夜間主コースの社会人入試がやや伸び悩んでいる。高校卒業で就職する者が減ってきているのも影響しているようだ。
- ・大学院の状況であるが、報告資料3-2のとおり、アントレプレナーシップ専攻は志願倍率が伸びているが、現代商学専攻（博士前期課程）の志願倍率が伸び悩んでいる。
- ・大学院現代商学専攻博士前期課程では、今年、定員割れが生じる可能性がある。現在、入学手続を行っており、近日中（26日）に入学者が確定するが、定員割れが生じた場合は、再募集を実施する予定である。（2年間収容定員割れを起こすと、法人評価にも影響する。）
- ・学部の一般選抜及び大学院現代商学専攻（博士前期課程）については、テコ入れが必要と考えている。

#### ●報告事項4 小樽商科大学出版会(研究成果刊行経費)による出版について

**(資料なし)**

学長より、本件については、本学の研究成果刊行経費により予算措置（交付額は1,925,000円）した小樽商科大学出版会による「多喜二の視点から見た身体・地域・教育」が、2月20日に出版された旨発言があり、併せて下記のとおり、報告があった。

##### 【学 長：報告内容】

- ・小樽商科大学出版会は、教育研究に関わる学術図書、教科書及び教育教材等に関する図書の刊行・頒布を通じて、本学の教育研究とその成果の発表を助成するとともに、学術・教育・文化の振興及び発展に寄与することを目的とし、昨年度から出版活動を始めたものである。
- ・本の製造・販売は、紀伊国屋書店に依頼している。
- ・昨年度は、小林准教授による「英語リスニング教材開発の理論と実践」が出版された。
- ・今回出版する本の内容は、昨年9月にオックスフォード大学において、本学と白樺文学館多喜二ライブラリーが後援する小林多喜二シンポジウムが開催され、そのシンポジウムで発表された論文を本学荻野教授が中心となって取り纏めたものである。
- ・1,200部発行され、そのうち1,000部が、紀伊国屋書店から販売されることとなっており、定価は、2,000円（税別）となっている。

#### ●報告事項5 役員会の開催日程について

**(報告資料5)**

学長より、本件については、来年度、役員会の上期（4月から9月まで）の開催日程について、報告資料5に基づき、下記のとおり、報告があった。

##### 【学 長：報告内容】

- ・役員会終了後は、引き続き、役員懇談会を開催する。
- ・学長等のスケジュールの都合で、日程が変更になる可能性がある。
- ・緊急時には、このスケジュールとは別に役員会を招集することもある。
- ・8月は、緊急時を除き、原則開催しない。

(平成21年度役員会上期(4月～9月)開催日程)

場 所：学長室

- 4月27日(月)13:00～
- 5月25日(月)13:00～
- 6月22日(月)経営協議会終了後
- 7月27日(月)13:00～
- 9月28日(月)13:00～(経営協議会)

最後に、学長より、次回の役員会については、3月18日(水)経営協議会終了後から開催する予定である旨発言があり、引き続き、役員懇談会が行われた。

以 上